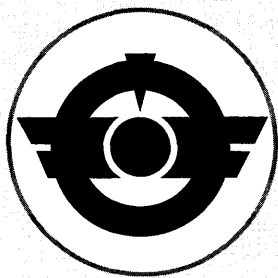


藤とインテリア織物のまち江南



■江南市

K O N A N

江南市は人口100,211人（平成15年8月1日現在）で、濃尾平野の北部、木曽川の南岸に位置し、平坦で肥沃な扇状地に形成され、温暖な気候と豊富な水に恵まれています。

江南市の産業は、カーテン地、壁紙、椅子張り地などのインテリア織物が盛んであり、その中でも高級カーテン地は全国随一のシェアを誇り、「インテリア織物のまち江南」として知られています。また、近年、加工食品をはじめとする食品産業や先端技術を活かした機械・通信・住宅工業も大きく発達し、江南市の産業はますます多彩に、そして幅広い分野へと広がりを見せています。

江南市の観光スポットとしては、後醍醐天皇の勅願寺として建立され、蜂須賀家政公（蜂須賀小六の子）が学んだとも言われる曼陀羅寺。毎年4月下旬から5月上旬にかけて全国的に有名な藤まつり、また秋には菊まつりが行われる曼陀羅寺公園。信長の愛した側室吉乃の眠る久昌寺。その他、有名な円空仏を所蔵する音楽寺などの歴史的な寺院から毎年10月上旬に市民まつりの行われる、高さ57mの展望台が自慢のすいとびあ江南のような、近代的な観光施設まで、様々なスポットがあります。



により、寄進されたものであり、桧皮葺の屋根、柱の配置は、南北朝前期の紫宸殿を模したもので、それが国指定文化財に指定された大きな理由の一つとなっています。

また、江南市には国の指定文化財として、曼陀羅寺正堂・書院をはじめ、絹本著色浄土五祖像、銅鐘などがあります。県の指定文化財としては、曼陀羅寺地蔵堂をはじめとする、木造阿弥陀如来坐像、宮後八幡社本殿、鑄鉄地蔵菩薩立像など多数あり、どれもが古くから伝わる貴重な文化財です。なかでも曼陀羅寺正堂は寛永9年（1632年）に阿波徳島の大名、蜂須賀家政が、幼時に曼陀羅寺の塔頭本誓院に学んだ縁